

平成 26 年度 8020 公募研究報告書抄録（採択番号：14-04-12）

研究課題名：勤労者を対象とした質問紙法によるスクリーニングの妥当性に関する研究
－効率的な産業歯科保健プログラムの開発を目指して－

研究者名：市橋透^{1,5)}、藤井由希¹⁾、関根千佳¹⁾、座間聡子²⁾、山崎健太²⁾、大山篤³⁾、
藤田雄三⁴⁾、武藤孝司⁵⁾

所 属：¹⁾（公財）ライオン歯科衛生研究所、²⁾ 株式会社神戸製鋼所加古川製鉄所
³⁾ 株式会社神戸製鋼所東京本社健康管理センター、⁴⁾ 藤田労働衛生コンサル
タント事務所、⁵⁾ 獨協医科大学医学部公衆衛生学講座

【目的】

著者らは H25 年度の 8020 研究助成を受け、産業歯科保健プログラムを初めて全員参加方式で導入した某企業従業員を対象に、質問調査と口腔内状態の関連を調査し、質問調査による口腔内状態のリスク把握の可能性を示した。しかし、1 事業所のみでの結果であったため、他企業などに一般化していく上で課題が残された。そこで本研究では、同様の調査を実施し、質問調査による口腔内状態のリスク把握の妥当性の検討を行った。

【対象および方法】

対象は日本の主要都市に事業所を有し職種も多様な某企業従業員で、当該企業では全従業員を対象に歯科保健プログラムを毎年継続的に実施している。解析対象者は 2014 年 9～12 月の一般定期健診時に実施した歯科健診受診者 1,320 人（43.1±11.7 歳）である。

未処置歯の「有無」および歯周ポケット「有無」を目的変数とし、説明変数に健康行動などの質問調査を用いて二項ロジスティック回帰分析を行い関連要因の選択を行った。選択された要因の該当個数と要受療型と非要受療型との分布から敏感度和特異度を求めた。

【結果】

未処置歯「有り」と関連のある要因はオッズ比(OR)の高い順にむし歯が気になる(5.88)、自分の歯に自信がない(2.47)、就寝前の歯みがき(2.04)、奥歯で噛めない(2.02)、なかなか歯科医院に行けない(1.76)の 6 項目が関連し、歯周ポケット「有り」とは、40 歳以上(3.28)、就寝前の歯みがき(1.91)、自分の歯に自信がない(1.72)、タバコ、出血(1.62)、腫れ(1.51)、デンタルフロス(1.41)、昼食後の歯みがき(1.41)、口の満足度(1.36)、性別(1.32)の 10 項目が関連していた。未処置歯「有り」と関連する 6 項目と、歯周ポケット「有り」と関連する 9 項目の各々について選択された個数と要受療型との ROC 曲線を求めた。未処置歯「有り」では 2 個以下と 3 個以上で敏感度は 0.688、特異度は 0.624 で最も高い値を示し、歯周ポケット「有り」は 4 個以下と 5 個以上で敏感度は 0.709、特異度は 0.571 で最も高い値を示した。

【考察】

今回の研究で選択された未処置歯(6 項目)および歯周ポケット(10 項目)に関連する各々の要因は、未処置歯のある者、歯周ポケットのある者のリスク把握に応用できるものと考えられた。また、H25 年度の研究成果で選択されたリスク把握の 9 項目の内、7 項目（年齢階級、タバコ、むし歯が気になる、腫れ、就寝前の歯みがき、デンタルフロス、口の満足度）は今回の研究でも選択され、口腔内状態のリスク把握を一般化していく上で重要な要因と考えられた。